

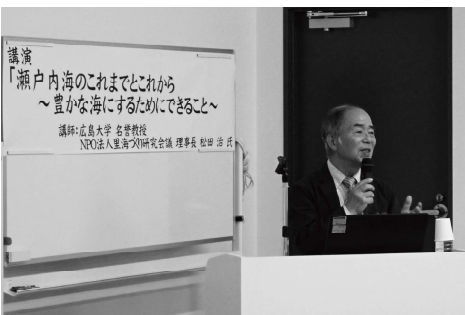
令和6年度瀬戸内海的环境保全に関する衛生団体合同研修会

第50回を広島県で開催

坂町公衛協、くれ環境市民の会など1個人3団体を表彰

瀬戸内海環境保全地区組織会議は、「令和6年度瀬戸内海的环境保全に関する衛生団体合同研修会」を10月18日にRCC文化センター(広島市)で開催しました。この研修会は、瀬戸内海沿岸の県市で活動す

る団体のリーダーが一堂に会し、瀬戸内海について学び、これからの活動に活かしているものと、今年で50回目を迎えました。



今年、約70人が参加し、広島県環境保全課参事福富裕之様を来賓に迎え、活動功労者(団体)への感謝状の贈呈、講演、体験交流・意見交換を行いました。表彰式では、岡山県、北九州市、広島県の1個人3団体が感謝状を贈呈され、広島県からは坂町公衆衛生推進協議会とくれ環境市民の会が表彰されました。

講演は、広島大学名誉教授の松田治様に「瀬戸内海のこれまでとこれから」豊かな海にするためにできること」と題し、瀬戸内海の歴史、瀬戸内海環境保全特別措置法や現在の状況

大会宣言

私たち公衆衛生推進委員は、積み重ねられた歴史の中で、行政や他団体と協働しつつ、自主的・組織的なコミュニティ活動をとおり、健康で住み良い地域づくりに努めてきました。

近年、少子高齢化や人口減少、ライフスタイルの多様化により、コミュニティ活動への参加意識が希薄化し、公衆衛生活動の後継者不足が大きな課題となっています。一方で、環境づくりや健康づくり、地震や風水害など自然災害への備え、脱温暖化を目指したカーボンニュートラル・脱炭素への取り組みなど、私たちの周りには取り組むべき課題が山積しています。

健康で住み良い地域を次世代に繋げていくためには、地域コミュニティに多くの住民が参画し、互いに助け合い、問題を解決していくこと、そして、それを継続していくことが必要です。

そこで、この大会を契機に、次の6つの項目について、より積極的・効果的に取り組む決意を示し、地域リーダーや関係者一同の情熱と知恵と行動力を結集し、その実現に向けて邁進することを宣言します。

- 一、災害時に活かせる知識の習得と、共助体制づくりによる公衆衛生活動の推進
- 一、プラスチックごみや不法投棄ごみの撲滅による生活空間の美観の確保と快適な環境づくりの推進
- 一、フレイル予防を目的とした健康づくりの活動の推進
- 一、住民・行政・事業者の連携による脱温暖化のまちづくりの推進
- 一、積極的な活動が担える人材の育成とあらゆる主体と連携した活動の推進
- 一、上記の5つの項目の実現に向けた、人と人とのつながりが生まれ、参加しやすいコミュニティ組織づくりと地域に根付いた活動の推進

令和6年11月22日

講演要旨

ゴミ清掃員としての経験から学ぶ ゴミ捨ては伝染する?!

今回の公衆衛生大会では、「ゴミ清掃員が見た!それ捨てますか?!〜ゴミステーションから考える日本のゴミ問題〜」というテーマで、お笑い芸人のマシンガンズ滝沢秀一先生にご講演いただきました。ゴミ清掃員としての13年の経験をもとに、いろいろな角度から日本のゴミ問題に関するお話があり、参加者の知見が広がりました。



お笑い芸人 マシンガンズ 滝沢 秀一先生

環境問題については、「日本の最終処分場の残余年数は約23年という事を知っているか」「コンポストを知っているか」などの問いかけがあり、コンポストについてはたくさんの方が「知っている」「使ったことがある」と手を挙げたことで、推進委員の意識の高さに驚いておられました。

食品ロスについては、米・スイカ・ゼリーなど手つかずの食品が捨てられていることや、首都圏のある自治体の資料では、一人ひとりが生ゴミを片手でぎゅっと絞って余分な水分を減らすだけで年間1億円のごみ処理費用が削減でき、両手で絞れば約3億円も削減できるという試算があるとお話がありました。



ゴミ減量の大切さを伝える滝沢先生

滝沢先生から、ゴミ清掃員としての実体験に加え、ゴミステーション、環境問題、食品ロスなどの視点を交えて軽快なテンポでお話いただきました。ゴミステーションについては、ゴミステーションがきれいな地域は地域ぐるみで管理ができていますので、引越先先の選定基準になること。また、汚い状態のゴミステーションは、捨てる人が適当に捨てれば良いと認識して雑な扱いになるが、ゴミステーションを頑張ってきれいにし続けると、きれいに使ってくれるようになることから「ゴミ捨ては伝染する」というお話をいただきました。

ゴミの焼却には多くのエネルギーが必要となるため、ゴミを捨てる際に水分を減らすことで、焼却に係るエネルギーを減らすことができます。手軽にできるCO₂ 排出抑制の取り組みですので、ぜひみなさんも取り組んでみてはいかがでしょうか。(文責 地域活動支援センター)

県大会被表彰者・感謝状受賞者一覧

第65回広島県公衆衛生大会で、表彰をされた個人・団体は次のとおりです。

広島県知事表彰

〔公衆衛生地区組織活動功労〕

団体の部：今津野地区公衆衛生推進協議会(尾道市)

個人の部：木曾義則(尾道市)、森近元、橋高勇一(福山市)、山本匡、前本聡宏、松木道江、久保田祐子、藤田まり子、福島忍(広島市)

〔母子保健活動功労〕

個人の部：豊田紳敬(熊野町)、濱崎隆(広島市)

〔歯科保健活動功労〕
個人の部：田部孝治(海田町)、甲元欣治(府中町)

広島県医師会長表彰

〔保健衛生活動優良地区〕

廿日市市女性連合会大野支部(廿日市市大野)

広島県環境保健協会表彰

〔地区衛生組織活動功労者〕

山崎和彦、荒木正男(府中町)、山部文恵(海田町)、岩井治子、中島数真、織田和子(熊野町)、渡邊光明(江田島市)、山根清長、水野千澄(廿日市市)、長尾典子(廿日市市大野)、平川了、古田正晴(東広島市)、田坂勇、中西正純(三原市)

〔地区衛生組織活動功労者〕

大瀬戸貴枝(府中町)

〔環境と健康のコミュニティ大賞〕

八次地区公衆衛生推進協議会(三次市)、土肥徳之(福山市) 敬称略

市、高山裕司、大原正廣、溝下昭信(尾道市)、笠原弘幸、桑田良隆、西田裕、中崎三男、塩飽チズ子(福山市)、中居宣、泉勝巳(府中市)

〔地区衛生組織活動優良団体〕
中須自治会(竹原市)、上組区民会、向東町寺内地区(尾道市)、津名地区ボランティアの会(世羅町)、川口学区公衆衛生推進協議会、轄学区公衆衛生推進委員会(福山市)

〔地区衛生組織活動功労者〕
大瀬戸貴枝(府中町)

〔環境と健康のコミュニティ大賞〕
八次地区公衆衛生推進協議会(三次市)、土肥徳之(福山市) 敬称略